

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立 勝山南部中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒911-0817
福井県勝山市旭毛屋町 3401
E-mail nanbutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp
Website <http://h28nambu.mitelog.jp/>
幼児児童生徒数 男子 114 名 女子 101 名 合計 215 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

地域への愛着と誇りを ESD カレンダーに基づいて、教科横断的に取り組んでいる。

- ・ふるさと勝山について学ぶ学習（勝山の職場を知ろうなど）
- ・伝統文化に目を向けた学習（雅楽、郷土料理など）
- ・未来に目を向けた環境、エネルギー学習（淀川清掃、服のチカラプロジェクトなど）
- ・勝山に関連する作品作り（例：かっちゃんま通り、かっちゃんみやげなど）
- ・ESDを意識した学校行事。

（例：修学旅行・遠足をきっかけにして勝山について考える）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

当校は、「自己を磨き、生き生きと活動する生徒の育成」を達成するために、今年度は「表現力の育成 ～主体的に活動できる生徒をめざして～」を研究主題に掲げている。教科の授業の中で学んだ内容を活用し、筋道を立てて話したり自分の伝えたいことを伝えたりする力や、道德の時間の中で自分が感じたことを適切な言葉で他者に伝える力を育成することをねらいとした。

i ふるさと勝山について学ぶ学習（勝山の職場を知ろうなど）

- ・ゆめオーレ勝山、繊維会社見学、繊維会社での職場体験、職場体験の発表。

勝山の働く現場を見学したり、職場体験をしたりして、「勝山には職がない」と考えていた生徒たちが、勝山にも多くの職場があることを知り、勝山を見直すことにつながった。



ii 伝統文化に学ぶ日本人の心

- ・地域の人材と連携して、雅楽・太鼓・ジオパーク・郷土料理の学習。

地域人材を活かして、生徒を興味のあるグループに分けて学習を進めた。学習する中で、勝山に住んでいる大人の想いや願いを知ったり、伝統的な料理、音楽、特色ある地質を知ったりと、勝山の魅力を学習した。学習発表をお互いにしあうことで、自分の選んだグループで学んだことをより確かな知識としたり、興味のなかった分野をしる機会となった。りすることができた。



iii 奥越の自然

- ・植物採集，ジオパーク学習，池ヶ原湿原でのヨシ刈り。

学校や家庭周辺の植物採集をした経験から、池ヶ原湿原に自生する植物の希少性を実感することができた。池ヶ原湿原のヨシ刈りでは、外来種の駆除や湿原の植生を守るために人間の活動（ヨシ狩りなど）が必要であることを知り、共生について考える機会となった。ジオパーク学習では、スキージャンプ勝山の地形は溶岩が流れた跡を活かして、スキー場としているなど、勝山の地形の特徴を科学的な視点で知ることができた。



iv 勝山の魅力を発信する

- ・金沢、恐竜博物館、福井市駅前、などで勝山の PR、アンケート調査。

- ・環境フォーラムにて発表。

講習会や授業、体験でインプットしてきた内容を、勝山の PR としてアウトプットすることで、確実な知識の定着と、発信していく中で、コミュニケーション能力の向上と地域への愛着を育むことができた。



v 委員会活動

- ・ユネスコ委員を中心に全校ボランティア，ユニクロと連携した「服のカプロジェクト」，ペットボトルキャップ回収。

全校ボランティア，服のカプロジェクト，ペットボトル回収は長年続けられ

ており生徒が当然のように自主的に行動している。この地域貢献をすることが当たり前の学校文化を今後も大切にしていきたい。



vi その他

- ・PTA 活動による，資源回収。



ア．活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解, 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化, 文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ．活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的, 総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ．活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

本校は、平成26年、ユネスコスクールに加盟し、教育課程全体を通してESDに取り組んでいる。これまで地域の人々の協力のもと就業体験、ボランティア活動等を通して、自分の生き方をみつめるとともに地域への愛着と誇りをもてるような教育を行ってきた。また、各地区の運動会や文化祭等に生徒が積極的に参加し、地域の中に溶け込んで活動している。生徒会やPTAを中心に挨拶の輪も広げている。地域との関わりやつながりを重視した学習を生かして、日本さらには地球規模の課題について考える学習に取り組みたい。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

生徒会組織の中にユネスコ委員会を設置。生徒会活動として、担当教員を2名おき、継続的に活動していける組織づくりをしている。

また、学校行事の中で各学年ESDを意識して、遠足・修学旅行などの中に地元の発信活動の中核にして、地元を学び活動を継続的に実施している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

学校での取り組みを学校通信、学級通信、ブログで発信している。通信には、保護者から返信できる欄を設け意見をもらっている。

教員による学校評価の中で、ESDカレンダーを意識した活動ができたか、評価している。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。

学校での取り組みを学校通信、学級通信、ブログで発信。

勝山市環境フォーラムにおいて学校の代表者が発表。勝山南部中学校の取り組みを勝山市民に発信。取り組みを知ってもらい、高評価をいただくことで、生徒たちが自信をもち、自主的な活動につながったり、積極的な活動につながったりした。

遠足の行き先において、勝山市のPRを実施。PR活動に向けた事前学習を通して、地元を深く知ることにつながり、郷土愛の育成することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

勝山市役所と連携して、全校ボランティア（清掃活動）の実施。地区委員と連携して、資源回収の実施。公民館と連携して、町民運動会の実施。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

勝山市内の小学校（ユネスコスクール）と連携して、学校祭における壁画作り。生徒が発案した勝山市にあると良い「おもてなし料理」を静岡県为学校（ユネスコスクール）に発信。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）

活動を通して、地域を調べたり、地域の人たちと交流したりすることで、郷土愛が育った。また、生徒と一緒に教員も地域の人たちから地域のことを学ぶことができた。

（３）平成 30 年度の活動計画

- ①生徒会活動（ユネスコ委員会）としての「全校ボランティア」の実施。企業と協力した「服のカプロジェクト」の実施。
- ②各学年で遠足や修学旅行における地域発信活動。発信するための地域学習。
- ③企業と連携した、職場体験。
- ④ユネスコスクール同士の交流。（勝山市の PR）